全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万3000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2024年7月18日

元気が出るみんなの取り組みをご紹介

楽しく普及拡大

子どもも、保護者も、指導員も、読み応えのある記事が満載です！

さあ！ほいく誌購読の輪を広げよう！仲間を増やそう！

関東甲信越の取り組みを紹介します！ part2

東京都連協の取り組み！

毎月の運営委員会で議題にする。年１回、普及拡大会議を開催。読み合わせや読書会を開催している地域、会議でおすすめ記事を紹介している地域もあります。

千葉県連協の取り組み！

毎月第１土曜日に開かれる読書会に、講座「子どもの遊び」を連載された須藤敏昭先生（大東文化大学名誉教授・子どもの遊びと手の労働研究会〈手労研〉前代表委員）をお誘いして、記事の内容に関する質問や感想を交流した。

神奈川県連協の取り組み！

県連協の催しや集まり、議員懇談会で活用するとともに、学童保育での新入生説明会でチラシや見本誌を配布しています。ほいく誌の読み合わせを行うなかで、日々の学童保育での悩みを話すひとときが生まれることもあります。

三多摩連協の取り組み！

毎月の運営委員会で読み合わせの時間を設けています。これまでは編集委員が誌面を紹介していたが、役員持ち回りで紹介することに。指導員会で、平日夜間に読書会を開催。

川崎市連協の取り組み！

毎月の役員会で部数増の検討をし、ほいく誌を読むことは指導員を応援することにつながると呼びかけています。また、子どものイラストなどが掲載されることで、関心を持ってもらうことを心がけています。

横浜市連協の取り組み！

毎月、ブロック長を含めた役員会で読み合わせ。2024年３月号に保護者の記事が掲載された。読み合わせなど、ほいく誌に関わる・伝える機会を増やしていくことも大切にしています。

日本の学童ほいく6月号

特集 子どもたちと一緒につくる夏休みの生活

間もなく夏休み！ 夏休みならでは！ じっくり遊びを楽しんだり、のんびり過ごしたり、の行事を満喫したり。さまざまな体験や経験をとおして、子ども同士、子どもと指導員の関係がよりいっそう深まります。
今月号では、「夏休みの学童保育での生活」「家庭での様子」を交流するとともに、「夏休みの生活づくり」について大切にしたいことを共にたしかめあいます。

全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

みんなで読もう！ 目標3万3000部

2024年7月18日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

読者の声

岩手県大船渡市●指導員から

年々、暑さが厳しくなり、学童クラブで毎年恒例だった「スイカ割り」も、熱中症対策とのかねあいで中止せざるを得ない状況となり、「季節の風物詩が減ってさびしいなぁ」と感じていました。

スイカを冷やすために、大きなタライ一つ分の氷を購入して保管していると、子どもたちが見つけ、氷遊びが大人気！　に。暑い外にいても、冷たいキンキンのブロック氷を持ったり、身体中にくっつけると、暑さも吹き飛び、気持ちのいいこと！

プールができない日が連日つづいたときには、「足だけでも冷たい水に入れて涼もう！」とタライに水をはり、数日前からつくった大量の氷を入れて、順番に「足水タイム！」。それだけでも気持ちいいことがわかりました。

ともすると、「暑いから室内で」「熱中症になったら危ないから……」となりがちですが、もちろん滞在時間や体調管理を行ったうえで、夏を楽しく！　暑い屋外でも涼しくなる過ごし方をやってみよう！　という気持ちで工夫しています。

『日本の学童ほいく』2024年6月号「読者の投稿」より

徳島県阿南市●指導員から

一日のほとんどを室内で過ごさざるを得なかった2023年度の夏。夏休み直前に職員が行ったミーティングで、少しでも涼しく快適に過ごせるよう、週に1回、「かき氷」を提供することにしました。私たちの学童保育では設備の都合上、これまで調理した食品を提供したことがなかったので、すでに「食品衛生責任者」の資格を取得している職員に加え、もう1名が新たに資格を取得して、その2名を中心に、念入りに準備を行いました。

事前に保健所に出向き、「食器は使い捨てのものを使用」「かき氷を提供する高学年の子どもは手袋をする」など、さまざまな留意点の指示をあおぐことで、食中毒などを予防するのに必要なことを意識でき、よい学びの場となりました。そして十分に計画を練り、期間内に6回、「かき氷」の提供を実施しました。「氷」と書かれた旗も飾り、見た目にも「涼」を感じられるように雰囲気づくりをして、シロップも数種類、トッピング用に缶詰めのフルーツも用意しました。低学年の子どもたちが、自分の好みのシロップを選び、高学年の子どもたちに注文するのですが、「全種類！」「下がいちごで上がメロン！」などとむずかしい注文が入り、四苦八苦。うまく注文どおりにできたときには満足げ。注文した子もあこがれや尊敬の念を抱く……など、よいコミュニケーションの場となったのはうれしいことでした。

『日本の学童ほいく』2024年6月号「読者の投稿」より

私と「ほ・い・く・誌」

読者リレー執筆・静岡県掛川市から保護者の石川敏裕さん

わが家は、私と妻、そして、3人の子どもたち（全員男の子！）に加え、にわとり2羽、ちゃぼ1羽の大家族です。現在、子どもたちは、高校3年生、中学3年生と1年生になりました。夫婦共働きのため、子どもたちは小学校敷地内に設置された学童保育にとてもお世話になりました。学童保育に隣接した「ねずみ山」をフィールドに、自然豊かな環境で過ごした楽しい思い出が、きっと、彼らの心に色濃く残っていることでしょう。

さて、そんな折、毎月定期購読していた『日本の学童ほいく』。忙しいなかでもページを読みすすめると、指導員、保護者、子どもたちが躍動している様子が感じとれました。そして、お楽しみのクイズや「どうしてどうして？」。わが家では、子どもたちとクイズを一緒に考え、ハガキで応募する際、普段疑問に思っている「なぜ」を質問することが自然な流れとなっていきました。ある日、ほいく誌に長男の質問が掲載され、専門家の方から回答いただきました。驚きとうれしさでいっぱいになったことが懐かしく思い出されます。そこからは、次男や三男も含め、何度か質問が掲載され、子どもたちの「なぜ」が「なるほど」に変わっていきました。

あらためて、私（わが家）とほいく誌を考えてみると、わが家にとって大切なもの、子どもたちとの思い出そのものです。ぜひこの思いをほかのご家庭でも実感していただけるよう、ほいく誌の普及拡大が進むことを切に願っています。皆様には、変化の激しい時代のなかでも、次世代に思いをつなげる架け橋として、ご尽力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

編集・発行 全国学童保育連絡協議会 〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1本郷宮田ビル4階 TEL●03-3813-0477 FAX●03-3813-0765
E-mail●zghrk@xui.biglobe.ne.jp http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou